

# 親潮

第 295 号  
平成 22 年度 第 1 号  
**OYASHIO**

## CONTENTS

新学部長挨拶	3
<b>特集 北水の今</b>	
<b>北晨寮が大改修されました</b>	4
会員の受賞	8
高橋 孝三 氏(昭47化) / 香川 浩彦 氏(昭51ゾ) / 前田 竜郎 氏(昭62化) / 平松 尚志 氏(平5ゾ) / 阪尾寿々 氏(平13生)	
退職者挨拶	11
築田 満 氏(昭45化)	
<b>第90回定期総会報告</b>	12
追悼	21
森岡 孝朗 氏(昭45ゾ) / 松浦 亮平 氏(昭24工) / 篠 黒 氏(特別会員) / 鈴木 恒由 氏(昭20ギ)	
寄稿	24
松浦 亮平 氏(昭24工)	
クラス会報告	26
東京支部総会 / 小樽支部総会 / 32卒同期会	
学位取得者	28
卒業・修了者の就職先	28
来訪 OB / OG	29
会員死亡通知	30
親潮投稿規定・編集後記	30

### お知らせ

## 第91回(2011年)北水同窓会 定期総会 開催案内(予告)

下記日程にて北水同窓会定期総会を開催いたします。  
ぜひ、ご出席ください。(詳細は追ってお知らせいたします)

- 開催日 / 2011年5月27日(金)
- 会場 / 「銀座ライオン クラシックホール」(予定)  
東京都中央区銀座7丁目9-20 銀座ライオンビル6階  
Tel : 03-3573-5355
- 総会・懇親会 / 18:00~

### 問い合わせ先

- 東京支部幹事長 浜谷一郎(昭51化) / E-mail : ihamahama21@yahoo.co.jp
- または ● 北水同窓会事務局 / E-mail : hokusui@hotweb.or.jp Tel : 0138-42-3681



「親潮」の刷新に伴い新しいコーナーを設けました。  
このコーナーでは、北大水産学部で「今」行われている教育、  
研究のトピックスをカラー紙面でお伝えします。同窓生の皆様に、  
時代の変化や最先端の研究をご理解いただければ幸いです。

# 北晨寮が大改修されました

星 恭兵 (平22資機)



昨年度、壁や床タイルの破損など老朽化が進んでいた北晨寮が大改修されました。冬の隙間風や夏に壁の穴から侵入してくる虫など、多くのことに悩まされてきた寮生たちの生活が今回の大改修により大きく向上しました。そこで改修に伴って新たに設けられた施設についてご紹介したいと思います。

改修後の寮の基本的な構造は以前と変わりません。4階建てで2階以上は東棟と西棟に分かれております。改修前の部屋数は100室以上ありましたが、1階の居室の老朽化が激しく、近年ほとんど使用されていない状態でした。改修後は学生居室がちょうど100室、定員100人(1人1部屋)となりました。1階から3階までが男子居室(70室)、4階が女子居室(30室)となっております。以前の食堂は外国人研究者用施設「ゲストハウスおしょろ」に改修され、寮生は各自自炊しております。各階にはキッチン室、シャワー室、洗濯室、トイレが配備されており、改修前の1階の大浴場は廃止されました。



新しい居室で勉強もはかかる



昔ながらの談話室  
(通称 居部屋)

■北晨寮 2階平面図



きれいなシャワー室  
ピカピカの洗濯室

## シャワー室、談話室、通学バスなど

北晨寮には改修前、食堂や大浴場がありました。これらは今回の改修で無くなってしまいましたが、各階にシャワー室が複数設置され24時間いつでも使用できるようになりました。また、各階に談話室(通称 居部屋)も設けられ、一新されたロビーや談話室では、毎日多くの寮生が集い、食事をしたり時には深夜まで語り合ったりしています。居室も一新され、各個人が自分好みの部屋を作っています。また、これまで寮のデメリットとして大学まで徒歩40分という遠さ、特に冬場の通学のしにくさが挙げられてきましたが、昨年冬から新たな試みとして寮、大学間

の直通バスが試験的に運行されました。冬場に自転車通学が困難となった多くの寮生がこのバスを利用し、感謝の声があがっていました。バスは一日に朝と夜の2本と少ないのですが、寮生の通学の大きな助けになるであろうと考えています。寮生用の駐車場(グランド横)も舗装され、街灯も設置され使いやすくなりました。玄関前の来客用駐車場もきれいに舗装され、大きな水たまりで悩むことがなくなりました。

改修されて新しくなりましたが、10月の「新歓」、1月の「赤ファンダービー」、3月の「追いコン」、5月の「花見」など恒例の年中行事は以前と変わらず行われております。

## ゲストハウスおしょろ

(外国人研究者用施設)



▲ おしょろ ロビー

このように改修に伴い新たに設けられたものによって、寮生はより快適な生活を送ることが出来るようになりました。ところで、今回の大改修によって寮内に新たな施設が設置されることとなりました。それが外国人研究者用施設「ゲストハウスおしょろ」です。この施設は海外から北海道大学水産学部へ研究のために来られた方のための居住施設であり、従来までの寮にはなかった新たな施設であるといえます。平成22年3月26日(金)には、北晨寮及びゲストハウス「おしょろ」竣工記念内覧会・祝賀会が開催されました。基本的に寮生は「ゲストハウスおしょろ」へ入ることができず、今のところ寮生との間にあまり交流はありませんが、今後交流を持っていきたいと考えています。海外からの招聘研究者に加えて、中国や韓国などからの留学生も「ゲストハウスおしょろ」に入寮し、他の寮生たちと互いの文化に触れながら、寮での生活とともに楽しんでおり、これまでの寮にはなかった北晨寮の国際的な面での活躍が今後期待されます。



◀ キッチン



自炊室 ▶



研究者居室部屋 ▶

現在、寮は大きな転換期にあります。今回の寮の大改修を機に多くの人が寮を持っているだらう悪いイメージを払拭し、寮ならではの良い部分を伸ばしていくと寮全体を取り組んでいます。今後の北晨寮に是非ご注目ください。

## 女子の入寮

また、北晨寮への女子の入寮がはじまってから、女子の入寮者数は増加傾向にあり、寮の存在が男女問わず必要とされているといえます。北晨寮では男子居住区画(1階から3階)と女子居住区画(4階)は完全に分かれています。さらに今回の改修で2つの居住区画を分ける扉に女子寮生のみ開錠可能なナンバー式のデジタルロックが設置され、プライバシーの面でも十分な対策が採られています。しかしながら男子寮生と女子寮生間の交流が無いわけではなく、試験前になると男女問わずロビーに集まり、互いに教えあいながら勉強に励んでいる姿も見られます。



*Celebration*

## 北晨寮及びゲストハウス「おしょろ」竣工記念内覧会・祝賀会開催される



平成22年3月26日(金)函館キャンパスにおいて、北晨寮及びゲストハウス「おしょろ」竣工記念内覧会・祝賀会が、佐伯総長をはじめ脇田副学長ら大学関係者を迎えて開催されました。

北晨寮は昨年4月から全面改修工事を行い同年12月に竣工し、寮内にゲストハウスを設け、函館キャンパスに在学する学生だけでなく、研究者にも使用していただけるようになりました。

内覧会は、北晨寮内で行われ、原水産学部長から改修工事の経過を説明があり、続いて佐伯総長から祝辞をいただき、伊藤健人君(水産学部海洋資源科学科3年)が寮生を代表して感謝の言葉を述べたのち、寮玄関前で、テープカットを行い完成を祝いました。式典が終わった後、出席者で寮内を見学しました。

祝賀会は、会場を函館キャンパス内産学官交流プラザオープنسペースに移し、来賓を代表して脇田副学長から祝辞をいただき、五嶋水産学部教務委員長の発声により乾杯を行い、終始和やかに懇談しておりました。

(事務長補佐 中塚英俊 文)



このコーナーに対するご意見やご感想等をお寄せください。北水同窓会宛のメール(hokusui@hotweb.or.jp)で結構です。親潮の末尾に「同窓生の声」という形で掲載し、また紙面の改善に利用させていただきたいと存じます。

## 会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING

### 高橋 孝三 氏(昭47化) 第3回 海洋立国推進功労者表彰 (内閣総理大臣賞)および 平成21年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞受賞

築田 满(昭45化)



九州大学大学院理学研究院教授、高橋孝三氏(昭47化)が去る2009年7月16日に平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および2010年7月16日に第3回海洋立国推進功労者表彰(内閣総理大臣賞)を受賞されました。前者の受賞対象研究は、「生物源沈降粒子フラックス変動と古海洋環境復元の研究」であり、後者の受賞対象研究は、海洋に関する顕著な功績分野(海洋に関する科学技術振興部門)「海洋における気候変動研究」であります。

高橋氏は、昭和48年水産化学科を卒業後、アメリカ合衆国ワシントン大学で学部および修士を終了後、ウッズホール海洋研究所で博士号を取得しております。同氏は、ウッズホール海洋研究所での就学中、今回の受賞評価となった「生物源沈降粒子フラックス変動と古海洋環境復元の研究」の発芽的研究を開始し、1980年代のスクリップ海洋研究所、その後のウッズホール海洋研究所の研究員として、セジメント・トラップ実験を用いた生物源沈降粒子フラックス研究を精力的に推進されました。その後、これらの研究は、1989年から日米共同研究(ウッズホール海洋研究所—北大水産学部)として、また1992年からは文部省科学研究費等および北大水産学部練習船「おしょろ丸」の支援を得て、北太平

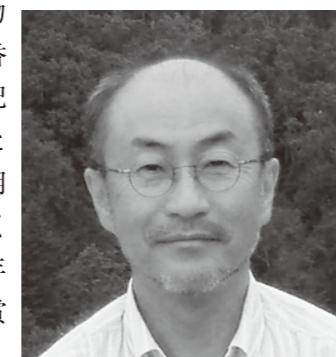
洋亜寒帯海域およびベーリング海を研究対象海域として、地球温暖化による気候変動を視野に入れた長期時系列研究「生物源沈降粒子フラックスにおける季節変動とその年変動」へと発展されました。時期を同じくして、同氏は、IODP統合国際深海掘削計画に参加し、北極海およびベーリング海での深海堆積物研究等によって未知の北極古海洋環境復元に多大な貢献を成されました。

上記両受賞は、過去35年間に亘る長期的で根気を要するこれらの一連の研究成果が高く評価されたものであり、これらの研究に水産学部ならびに「おしょろ丸」が少なからず関与していたことは北水同窓会にとっても誠に喜ばしいことでもあります。これらの研究は現在もまだ継続中であり、近未来の地球温暖化に伴う地球・海洋環境の変遷予測のためにはこれらの研究の継続性が重要視されており、高橋氏の益々のご活躍を期待しております。

CONGRATULATIONS ON WINNING

### 香川 浩彦 氏(昭51ゾ) 平成21年度 水産学進歩賞受賞

足立 伸次(昭55ゾ)



宮崎大学農学部生物環境科学科教授、香川浩彦氏は「魚類の配偶子形成機構の解明と種苗生産技術への応用に関する研究」が高く評価され、平成21年度水産学進歩賞を受賞されました。

香川氏は昭和51年水産増殖学科を卒業された後、大学院水産学研究科へ進学され、魚類の卵形成機構に関する研究を開始されました。香川氏は、これまで一貫して魚類の配偶子形成機構、特に卵形成機構に関して、形態学、免疫組織化学、生化学および分子生物学的手法を駆使して研究され、博士課程在学中には基礎生物学研究所の長濱嘉孝教授(昭41ゾ)の下、世界に先がけてサケ科魚類の卵濾

胞組織におけるステロイド合成に関する顆粒膜細胞と莢膜細胞が共同してエストロゲン生成を行なう「2細胞型モデル」を解明されました。昭和62年からは水産庁養殖研究所において、海産有用魚種であるマダイの卵成熟期には卵成熟能獲得期が存在し卵成熟能の獲得には黄体形成ホルモンやインスリン様成長因子-Iが重要な役割を果たすことなどを初めて明らかされました。また、これらのサケ科やマダイで行なわれた生殖内分泌的な基礎研究をもとに、ウナギの卵成熟誘起機構に関する研究を推進され、成熟能獲得や卵成熟誘起ステロイド生成機構および卵母細胞の吸水メカニズムを明らかにされ、水産資源上重要でありながら人工飼育環境下で成熟しないウナギの人為成熟誘起技術を開発されました。この技術はレプトケファルス幼生の飼育技術の開発に大きく貢献し、シラスウナギの生産に世界で初めて成功され、平成11年度日本水産学技術賞も受賞されています。平成15年からは宮崎大学農学部生物環境科学科水産科学講座教授として、引き続き魚類の配偶子形成機構の解明と種苗生産技術への応用に関する研究を推進されています。

今回の受賞は研究室一同と卒業生にとっても誠に喜ばしいことであり、香川氏の益々のご活躍を期待しています。

CONGRATULATIONS ON WINNING

### 前田 竜郎 氏(昭62化) 日本農芸化学会2009年度 英文誌で論文賞受賞

小澤 龍太郎(昭49食)

日清製粉グループの日清フーズ(株)開発センター食品研究所に勤務する前田竜郎氏は、この度、東京大学、京都大学、日本大学、食品総合研究所との共同研究で日本農芸化学会のBBB英文誌(Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry)論文賞を受賞しました。論文タイトルは「Visualization and Quantification of Three-Dimensional Distribution of Yeast in Bread Dough」で、パン生地中のイースト(パ

ン酵母)の三次元分布の可視化と定量化について記述したものです。

BBB英文誌は動物、植物、微生物が示す生命現象、およびこれらの生物が生産するものの化学構造や機能、関連する事柄を化学的、生物学的に解析した優れた論文を掲載しています。基礎から応用まで、多種多様な研究領域から生み出される優れた成果を広く世界に発信するために大きな役割を果たしています。

また、この賞は毎年400報程度の論文から5~10報程度選考されるもので、大学関係者以外の企業から選ばれることは珍しいといわれています。尚、この表彰式は3月27日に東京大学 安田講堂(文京区本郷)にて開催されました。



前田氏と共同受賞者(前田氏は左から3番目)

CONGRATULATIONS ON WINNING

### 平松 尚志 氏(平5ゾ) 平成21年度 日本水産学会奨励賞を受賞

東藤 孝(平2ゾ)

平松尚志氏(平5ゾ)が、去る3月に開催された日本水産学会総会で、平成21年度水産学奨励賞を受賞されました。受賞の対象となった研究タイトルは「魚類の卵形成に関与する卵黄前駆物質およびその受容体に関する研究」です。



魚類の卵形成のメカニズムを解明することは、水産増養殖における種苗生産技術の確立や水産有用種の資源管理などの面からも重要です。魚類の卵母細胞は、肝臓で合成される卵黄蛋白前駆物質ビテロジエニン (Vg) を多量に取り込みながら急速に成長します。卵黄蛋白は魚卵の最大の構成要素であり、稚仔魚にとって最も重要な栄養源であることから、Vg の合成や卵内への蓄積の機構については多くの研究が行われてきましたが、それらの詳細については不明な点が多く残されていました。平松氏は、魚類の卵形成、特に Vg・卵黄蛋白の蓄積機構や機能性に関して、主に生化学および分子生物学的アプローチから研究を行い、多くの重要な基礎的知見を明らかにしてきました。特に、卵内の Vg 分解酵素ならびに Vg 受容体の同定や Vg における多型性の発見は世界に先駆けてなされたものです。以下に平松氏の研究内容を紹介いたします。

平松氏は先ず、我が国的重要な水産有用種であるサケ科魚類を用い、Vg と各種卵黄蛋白の関係を生化学的に解明するとともに、それまで未解明であった卵内における Vg の限定分解に関与する酵素を初めて同定しました。次に、スズキ類等の増養殖対象魚種を用い、生化学的手法に加えて分子生物学的手法を導入し、研究をさらに発展させてきました。その過程で、同氏は Vg 分子に多数のサブタイプが存在することを発見し、世界に先駆けて各タイプの精製法を確立しました。この発見を端緒として、各 Vg サブタイプの構造と機能的相違に基づく魚類 Vg の分類法を提唱しました。さらに卵母細胞における Vg の受容体特異性を確認し、受容体側にも数種のサブタイプが存在することを示唆しました。これらの知見は魚類における卵黄形成の基礎モデルとなり、現在では「多型 Vg モデル」として知られる概念となっています。さらに平松氏は、多型 Vg から派生した多様な卵黄蛋白成分が、異なる機能を持って卵の浮遊性や胚・稚魚の発生過程に関与することを示しました。その知見から、各卵黄成分の蓄積比率やそれらの分解過程に関わる酵素群の活性が、卵質に直接影響を及ぼす因子群であり、同時に卵質評価指標の有力候補となることを提唱しています。また Vg は、環境エストロジエンの影響を調査するうえで現在、最も頻用される生体指標蛋白ですが、平松氏は調査・測定結果の正確な比較評価を可能とするため、Vg の各サブタイプに特異的な抗体・測定系の重要性を提示し、それらを開発・確立しています。

以上、平松氏のこれらの研究成果は、魚類繁殖生理学の基礎研究のみならず、増養殖技術の向上や環境評価など応用面においても大きく貢献するものです。平松氏は国際的にも高く評価されている新進気鋭の研究者であり、今後もその活躍が大いに期待されます。

## CONGRATULATIONS ON WINNING

### 阪尾寿々 氏(平13生) 平成21年度 日本水産学会論文賞を受賞

荒井 克俊 (昭51ゾ)

阪尾寿々さん(平13生)が中心となった論文『Artificially induced tetraploid masu salmon have the ability to form primordial germ cells 「人為四倍体サクラマスは始原生殖細胞を持つ」 (Fisheries Science 75巻4号 993-1000頁)』が平成21年度日本水産学会論文賞を受賞しました。本論文は、阪尾さんの博士学位論文(平成18年)の一部であり、また、本学大学院水産科学院、北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所、東京海洋大学の共同研究の成果として発表されたものです。阪尾さんは既に受精卵の第一卵割阻止により人為的に誘起した四倍体サクラマスは著しく生存能力に劣り、ほとんどの場合、摂餌開始までに死亡することを報告しています。したがって、人為的に四倍体を作

出し、そのような四倍体親魚からの二倍体卵あるいは精子を得て、それらの受精により三倍体を作出する等の育種は目下のところ困難な状態にあります。しかし、この論文では、死亡してしまう四倍体胚であっても、将来卵や精子へと分化する始原生殖細胞が正常に分化することを明らかにしました。従って、この研究結果は生殖系列キメラを介して四倍体の生殖細胞に由来する二倍体配偶子を作出する可能性を強く示しており、新たな倍数体育種への第一歩と言える貴重な成果です。今後も多くの同窓若手研究者の業績が評価され、表彰されることを望みます。



## 退職者挨拶

### 楽しく充実したわが学究生活、ただひたすら海洋調査。



篠田 满 (昭45化)

本年3月末日をもって定年退職となりました。1966年北海道大学水産類に入学して以来、44年間、北海道大学水産学部並びに北水同窓会には大変お世話になりました。

わが学究生活は、北大水産学部4年目卒業研究における青函海底トンネル工事に伴う漁業影響調査から始まり、1973年から開始した噴火湾における漁業生物資源と漁場環境に関する研究、1984年から函館海上磯沖海域における水質環境の変動に関する研究、そして1988年からのベーリング海および北太平洋海域における基礎生産過程に関する研究など、海洋の化学的環境の長期変動を主題として、ただひたすらに北大水産学部付属練習船(おしょろ丸、旧北星丸、うしお丸)に乗船し、毎年こつこつと同じサンプリングおよび研究を続けていたにすぎなかつたかもしれない。しかし、もし将来、このような長期継続的研究を評価される時が来るならば、それはこのような研究手法を許してくれた寛大な北海道大学水産学部自体の良き雰囲気の結果であるかもしれない。

わが学究生活において、このような環境と北大水産学部付属練習船によって楽しいそして充実した研究生活を送れたことは、北水同窓会関係各位のご理解、ご支援、ご協力、そしてご厚情の賜物と深く感謝を申し上げます。

最後に、北水同窓会の皆様のご健勝とご活躍を祈念し、退職の挨拶といたします。

第90回

# 北水同窓会定期総会報告

■開催日時：平成22年5月29日

■会場：青森国際ホテル



第90回北水同窓会定期総会には、青森県支部の40名をはじめ全国各地から計65名が参加しました。総会は青森支部長の佐藤立治氏(昭36エ)が議長を務め、「平成21年度事業経過報告および会計決算報告」、「平成22年度事業計画および予算案」が承認されました。

議案に関する質疑では、特別会計の目的、また名簿発行部数に関する質問がありました。また、会費未納会員に親潮を発送することのはずについて意見が出されました。これに対しては、同窓会の目的に照らし、全会員に配布することが原則であること、今後会費納入の促進を一層強化するとの説明がなされました。なお、発言者から、発言の主旨を記録に残すよう求められました。

総会は約1時間で終了し、記念写真を撮影した後、懇親会に移りました。

懇親会では、横山清会長(昭35エ)の挨拶に続き、本年4月に新しく学部長に就任した嵯峨直恒(特)名誉会長に代わって桜井泰憲氏(昭48ゾ)の挨拶があ

りました。また、来賓として参加された本学理事脇田稔副学長からご挨拶をいただきました。そして佐藤立治青森支部長の乾杯の発声で祝宴が始まりました。

祝宴は津軽三味線の生演奏で始まり、脇田副学長から連合同窓会の説明、北大フロンティア基金の現状と寄付のお願い、北大卒業生に対する北大メールアドレスの提供などについて説明がありました。また、北大広報課長の中塚英俊氏(前水産学部事務長補佐)からは北水カッターのオールを再利用したペーパーホルダーや、札幌キャンパスのハルニレ材で作製した「水産放浪歌」のオルゴールなど北大グッズの説明と会場販売がありました。興味のある方は是非北大広報課にお問い合わせください。最後は恒例の「都ぞ弥生」、「水産放浪歌」を全員で齊唱し、万歳三唱でお開きとなりました。

会場設営に当られた青森支部の皆様へ厚くお礼申し上げます。

「庶務部幹事・井尻成保(平4ゾ)」

## 式次第

### 第90回定期総会

- 開会の辞 ..... 本部副幹事長 板橋 豊(昭50化)
- 開会の挨拶 ..... 同窓会会長 横山 清(昭35エ)
- 議長選出 青森支部 ..... 佐藤立治(昭36エ)
- 平成21年度事業経過報告・会計決算報告  
平成22年度事業計画・予算案報告



会長挨拶

### 懇親会

- 会長挨拶 ..... 横山 清(昭35エ)
- 名誉会長挨拶(代理) ..... 副研究院長 桜井泰憲(昭48ゾ)
- 来賓挨拶 ..... 北海道大学理事 副学長 脇田 稔
- 本部幹事長挨拶 ..... 飯田浩二(昭51ギ)
- 青森支部長挨拶・乾杯 ..... 佐藤立治(昭36エ)
- 津軽三味線実演
- 「北海道大学連合同窓会の案内」 ..... 北海道大学理事 副学長 脇田 稔
- 「北大グッズの案内」 ..... 北海道大学広報課長 中塚英俊
- 同窓会員スピーチ
- 次期総会開催支部(東京都支部)の案内
- 寮歌齊唱 ..... 都ぞ弥生 前口上: 井尻成保(平4ゾ)  
水産放浪歌 前口上: 高林信雄(昭56ギ)
- 万歳三唱 ..... 山口伸治(昭49化)



来賓挨拶



青森支部長による乾杯



都ぞ弥生齊唱

## 第90回 北水同窓会定期総会報告

### ■出席者

〈来賓〉

脇田 稔	山口 伸治(昭49化)
中塚 英俊	宝多 森夫(昭51ゾ)
〈特別会員〉	
渡邊 修一	古屋 博幸(昭52食)
〈青森県〉	松宮 隆志(昭53ゾ)
鈴木 慶照(昭25セ)	天野 勝三(昭54ゾ)
高橋 邦夫(昭28ゾ)	佐藤 晋一(昭54ゾ)
佐藤 立治(昭36エ)	山内 高博(昭55ギ)
秋葉 文和(昭37ギ)	川村 俊一(昭56ギ)
又井 一宣(昭37ギ)	高林 信雄(昭56ギ)
青山 祐夫(昭39ゾ)	工藤 敏博(昭56化)
足助 光久(昭40ゾ)	野呂 恭成(昭57ゾ)
横山 勝幸(昭41ゾ)	対馬 康介(昭59ギ)
武田 収平(昭42エ)	川端 一史(昭62化)
高橋 芳典(昭43食)	山中 崇裕(昭62ゾ)
澤田 満(昭44ゾ)	吉田 達(平元ゾ)
平野 忠(昭46ゾ)	蝦名 浩(平2ゾ)
原口 健二(昭47ゾ)	鳴海 文義(平2ギ)
	吉田 雅範(平4ゾ)

田中 淳也(平8化)	横山 信一(昭58ギ)
向井 友花(平10食)	高津 哲也(昭63ギ)
〈北水同窓会本部〉	
若井 佳久(平12海)	松谷 紀明(学生会員)
小谷 健二(平13生)	
前多 隼人(平15資)	桜井 泰憲(昭48ゾ)
田澤 亮(平16シ)	横山 清(昭35エ)
伊藤 欣吾(平18環境)	飯田 浩二(昭51ギ)
前田 晃子(平20生)	板橋 豊(昭50化)
吉水 守(昭47食)	
神山 茂郎(昭1セ)	清水 宗敬(平3ギ)
菊池 良兵(昭22ギ)	工藤 秀明(平3ゾ)
前田 辰昭(昭26エ)	井尻 成保(平4ゾ)
小泉 守(昭32ゾ)	平松 尚志(平5ゾ)
石川 光男(昭36ゾ)	笠井 久会(平12資)
小林 正昌(昭39ゾ)	
高橋 豊美(昭44エ)	
原田 晃(昭51化)	

### ■総会次第

#### 1. 開会の辞

副幹事長 板橋 豊(昭50化)

#### 2. 議長選出

#### 3. 議案第1号

平成21年度事業経過報告および会計決算報告

#### (1) 一般経過報告

幹事長 飯田 浩二(昭51ギ)

#### (2) 務務部報告(資料1)

庶務部 井尻 成保(平4ゾ)

#### (3) 編集部報告(資料2)

編集部 清水 宗敬(平3ギ)

#### (4) 組織部報告(資料3)

組織部 笠井 久会(平12資)

#### (5) 会計部報告(資料4)

会計部 平松 尚志(平5ゾ)

#### (6) 会計監査報告

監事 吉水 守(昭47食)

#### 4. 議案第2号

##### 平成22年度事業計画および予算案

##### (1) 平成22年度役員改選案(資料5)

庶務部 井尻 成保(平4ゾ)

#### (2) 第91回(平成22年度)定期総会開催地(東京) について

幹事長 飯田 浩二(昭51ギ)

#### (3) 平成22年度予算案

##### 1. 会計部予算案(資料6)

会計部 平松 尚志(平5ゾ)

##### 2. 編集部予算案(資料7)

編集部 清水 宗敬(平3ギ)

##### 3. 組織部予算案(資料8)

組織部 笠井 久会(平12資)

### 5. その他

### 6. 閉会の辞

副幹事長 板橋 豊(昭50化)

## ■平成21年度 務務部報告(資料1)

#### 1) 新入会員数

水産海洋科学科	3名
海洋生物生産科学科	7名
海洋生産システム学科	10名
海洋生物資源化学科	5名
海洋生物科学科	49名

増殖生命科学科	52名
海洋資源科学科	30名
資源機能化学科	52名
大学院(他大学、他学部出身者)	
修士	14名
博士	9名
合計	231名

2) 本年度物故者(平成21年度親潮掲載分)	
正・準会員	107名
特別会員	2名
合計	109名

3) 会員現在数(3月15日現在)	
正・準会員総数	13,780名
物故正・準会員数	2,680名
正・準会員現在数	11,100名
(内準会員数)	(21名)
特別会員数	70名
名誉会員数	3名
会員数合計	11,173名

4) 新入会員を含めた会員現在数(3月31日現在)  
合計 11,404名

### 食品工場・厨房内の自主検査のお手伝いをします。 HACCP・ISO導入指導及び検証・評価・改善指導

★食品の微生物検査 ★施設類・道具・器具類の拭き取り検査  
★食品・副資材・調理室内の微生物の除殺菌テスト ★食品の賞味期限の設定  
★保存テストのデータ蓄積 ★その他衛生指導、社員教育などご相談をお受けします。

株式会社 キュー・アンド・シー

代表取締役 奥野 和弘 昭和42年製造 松原 伸二 昭和62年化学 久保 雅俊 平成12年資源 阿部いく子 平成17年資源

分析室 〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7 TEL.011-786-8300 FAX.011-786-8266  
URL <http://www.qandc-lab.com/> E-mail [haccp@qandc-lab.com](mailto:haccp@qandc-lab.com)

## 第90回 北水同窓会定期総会報告

### ■平成21年度 編集部報告 (親潮発行) (資料2)

	号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
予算	293号	平21年8月末	本誌カラー 16頁 別冊モノクロ10頁	8,200 8,200	1,500,000 140,000	※1 ※2
	294号	平22年2月末	本誌カラー 16頁 別冊モノクロ10頁	8,200 8,200	1,500,000 140,000	※1 ※2
	合計		52	32,800	3,280,000	
決算	293号	平21年9月30日 平21年9月30日	本誌カラー 16頁 別冊モノクロ16頁	8,400 8,400	1,498,308 196,686	※1 ※2
	294号	平22年3月1日 平22年3月1日	本誌カラー 16頁 別冊モノクロ12頁	8,400 8,400	1,498,308 174,006	※1 ※2
	合計		60	33,600	3,367,308	

※1 印刷会社:(株)トライ・ビー・  
サッポロ  
企画立案、原稿編集、執筆  
補助含む  
印刷費には消費税、振込手  
数料を含む。  
※2 印刷会社:(有)三和印刷  
印刷費には別刷り振替用紙  
代、消費税を含む

支 出	親 潮 印 刷 費	3,280,000	3,367,308	(資料2) 親潮発送費 2回分含む
	通 信 ・ 運 搬 費	1,500,000	1,204,352	
	總 会 旅 費	300,000	300,000	
	組 織 強 化 費	1,000,000	799,584	
	備 消 耗 品 費	50,000	0	
	會 議 品 費	300,000	242,498	
	振 替 手 数 費	50,000	0	
	事 務 嘱 托 費	200,000	145,355	
	H P 維 持 費	2,200,000	2,179,344	
	雜 費	150,000 120,000 30,000	139,000 120,000 6,043	
	OA 機 器 整 備 費	100,000	100,000	
	名 簿 会 計 へ 予 備 費	1,300,000	1,300,000	
	次 年 度 繰 越 金	4,196,917	0	
	合 計	14,776,917	12,355,963	

収支差引額(平成22年度に繰越)  
2,452,479円  
(繰越金の内訳:銀行預金 2,393,829円、  
ゆうちょ銀行 27,675円、現金 30,975円)

### ■平成21年度 組織部報告 (名簿会計) (資料3)

	項 目	予算額	決算額	摘 要
収入	前 年 度 繰 越 金	2,734,819	2,734,819	名簿積立金
	一般会計より繰入 名 簿 広 告 料 預 金 利 息	1,300,000 2,000,000	1,300,000 1,415,000 1,431	
支出	合 計	6,034,819	5,451,250	
	名 簿 印 刷 費 通 信 運 搬 費 振 込 手 数 料 等 次 年 度 繰 越 金	3,500,000 288,000 20,000 2,226,819	3,409,560 288,000 20,420 1,733,270	3600部印刷 送料1冊80円
合 計	6,034,819	5,451,250		

(繰越金の内訳 銀行預金 1,733,270円)

### ■平成21年度 会計部報告 (資料4)

#### 1) 平成21年度 一般会計決算報告

	項 目	予算額	決算額	摘 要
収入	前 年 度 繰 越 金	3,636,917	3,636,917	2,022名
	会 費 親 潮 広 告 料 雜 収 入	10,800,000 240,000 100,000	8,080,000 540,000 99,046	
合 計		14,776,917	12,355,963	

#### 2) 平成21年度 OA機器整備費(積立)決算報告

	項 目	予算額	決算額	摘 要
収入	前 年 度 繰 越 金	24,063	24,063	名簿積立金
	一般会計より積立	100,000	100,000	
支出	合 計	124,063	124,063	
	次 年 度 繰 越 金	124,063	124,063	
合 計		124,063	124,063	

(繰越金の内訳 現金 124,063円)

#### 3) 平成21年度 特別会計決算報告

	項 目	予 算 額	決 算 額
収入	前 年 度 繰 越 金	21,161,472	21,161,472
	ゆうちょ銀行利息 定期預金(マリンシグ)利息	55 43,383	
支出	合 計	21,161,472	21,204,910
	次 年 度 繰 越 金	21,161,472	21,204,910
合 計		21,161,472	21,204,910

#### ○平成21年度 特別会計資産内容

項 目	資 産 額
郵便定額貯金1口	7,204,000
ゆうちょ銀行預金	90,039
銀行定期預金 (マリンバンク) 2口	13,910,871
合 計	21,204,910

## 第90回 北水同窓会定期総会報告

### ■会計監査報告

北水同窓会の平成21年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記

1. 監査対象期間      自 平成21年3月16日  
                          至 平成22年3月15日

2. 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。

3. 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。  
以上

平成22年3月23日    監事

監事

### ■平成22年度 役員改選案

(資料5) [○は新任]

#### 会長

横山 清 (昭35エ)

桜井 泰憲 (昭48ゾ)

#### 名誉会長

○嵯峨直恆 (特別会員)

#### 副会長

前田辰昭 (昭26エ)

羽田野六男 (〃31セ)

鈴木賢一 (〃36セ)

吉野生壯 (〃37ゾ)

#### 相談役

遠藤信二 (〃13ヨ)

宮原九一 (〃14ギ)

#### 代表理事

○後藤晃 (〃45ゾ)

#### 学内理事

阿部周一 (〃46ゾ)

原彰彦 (〃46ゾ)

目黒敏美 (〃47ギ)

帰山雅秀 (〃48ゾ)

今野久仁彦 (〃49食)

山口秀一 (〃49ギ)

高橋是太郎 (〃50食)

板橋豊 (〃50化)

齊藤誠一 (〃50ギ)

門谷茂 (〃50化)

飯田浩二 (〃51ギ)

平石智徳 (〃51ギ)

荒井克俊 (〃51ゾ)

矢部衛 (〃51ゾ)

中谷敏邦 (〃52ギ)

梶原善之 (〃53ギ)

清水晋 (〃53ギ)

蛇沼俊二 (〃53ギ)

宮澤晴彦 (〃53ギ)

河村章人 (〃53ゾ)

山下成治 (〃54ギ)

古井恒弘 (〃53ゾ)

尾島孝男 (〃54化)

木村暢夫 (昭55ギ)	安間元 (昭38エ)	村松裕史 (昭54食)	(滋賀) 澤田宣雄 (昭57ゾ)
川合祐史 (〃55食)	西田清義 (〃38セ)	宮岡秀昌 (〃55ゾ)	(三重) 谷村篤 (〃50ゾ)
足立伸次 (〃55ゾ)	天下井清 (〃39エ)	広崎淳一 (〃55ギ)	(大阪) 入江和彦 (〃45ギ)
安井肇 (〃55ゾ)	林賢治 (〃39セ)	正木悦郎 (〃55ギ)	(兵庫) 岡村武司 (〃53ギ)
山羽悦郎 (〃55ゾ)	菅野泰次 (〃39ゾ)	西川正一 (〃56ギ)	(和歌山) 小橋保智 (〃32ギ)
工藤勲 (〃57化)	小越征夫 (〃40エ)	種田貴司 (〃56食)	(室蘭) 矢島清孝 (〃45食)
関秀司 (〃57化)	米田国三郎 (〃40エ)	野崎雅敏 (〃56ゾ)	(札幌) 林和明 (〃38ゾ)
○高木省吾 (〃58ギ)	木村昇 (〃40セ)	藤田公美 (〃57ギ)	(札幌) 真田篤弘 (〃43化)
○都木靖彰 (〃59ゾ)	猪上徳雄 (〃41セ)	小林良一 (〃57食)	(札幌) 村井茂 (〃45ゾ)
監事	上平幸好 (〃41ゾ)	佐藤友則 (〃57食)	(小樽) 小田一夫 (〃45ギ)
吉水守 (〃47食)	岸本富男 (〃42ギ)	嶋田隆司 (〃57化)	(余市) 川村一廣 (〃33ゾ)
増田宣泰 (〃51化)	山本勝太郎 (〃42ギ)	学外幹事	(青森) 佐藤立治 (〃36エ)
学外理事	眞木序夫 (〃42エ)	阿部純也 (〃58ギ)	(八戸) 武田恵二 (〃26ゾ)
西山作蔵 (〃22ギ)	清水幹博 (〃42ゾ)	横山信一 (〃58ギ)	(秋田) 赤間健太郎 (〃41ゾ)
鹿角幹夫 (〃24エ)	田島研一 (〃43食)	佐藤直孝 (〃58食)	(村山) 山田彰一 (〃40ゾ)
高野洋藏 (〃24セ)	藏多一哉 (〃43化)	小野浩 (〃59食)	(庄内) ○村井太郎 (〃50ギ)
長澤正徳 (〃24セ)	池田勉 (〃43ゾ)	吉岡武也 (〃60食)	(盛岡) 奥山勇作 (〃54ゾ)
増田紀義 (〃25エ)	仲谷一宏 (〃43ゾ)	吉田秀嗣 (〃60ゾ)	(宮古) 和田秀雄 (〃60ギ)
木村順治 (〃26ギ)	○廣吉勝治 (〃44ギ)	今野伸 (〃62食)	(久慈) 今祐造 (〃57ギ)
山内彬一 (〃26ギ)	高橋豊美 (〃44エ)	宮崎永司 (平1ギ)	(釜石) 高橋禎 (〃56ゾ)
工藤駿一 (〃28セ)	工藤昭彦 (〃44ゾ)	柳町琢也 (〃4化)	(仙台) 渡辺宏 (〃39セ)
中村哲也 (〃28セ)	志賀直信 (〃44ゾ)	地方理事	(石巻) 小池幾世 (〃53ギ)
寺地潔 (〃28ゾ)	寺内皓平 (〃44ゾ)	(稚内) 風無成一 (昭41ギ)	(気仙沼) 千葉敏朗 (〃46ゾ)
大島栄一 (〃30エ)	伊藤悦郎 (〃45ギ)	(留萌) 祐川正幸 (〃48ゾ)	(福島) 高越哲男 (〃44ゾ)
富田幸二 (〃30セ)	三浦汀介 (〃45ギ)	(紋別) 片岡靖 (〃42ゾ)	(茨城) 原田和民 (〃24教ゾ)
服部保次郎 (〃31エ)	三佐川稔 (〃45ギ)	○築田満 (〃45化)	(栃木) 大友時夫 (〃44ゾ)
山口秀一 (〃49ギ)	箕田嵩 (〃31ゾ)	今井信幸 (〃47ギ)	(埼玉) 吉川晴二 (〃41ゾ)
高橋是太郎 (〃50食)	高野和則 (〃32ゾ)	中林重雄 (〃47ギ)	(館山) 安田健治 (〃56食)
板橋豊 (〃50化)	島崎健二 (〃33エ)	近江政斗 (〃47食)	(銚子) 山口隆夫 (〃53化)
齊藤誠一 (〃50ギ)	高島優 (〃33エ)	陸田彰 (〃47化)	(千葉) 佐藤隆義 (〃40ゾ)
門谷茂 (〃50化)	山崎文雄 (〃33ゾ)	黒瀬道則 (〃47ゾ)	(東京) 鉢木和三 (〃38ゾ)
鈴木賢一 (〃36セ)	菊地英樹 (〃34エ)	米田義昭 (〃34セ)	(東京) 菊本肇 (〃40ギ)
吉野生壯 (〃37ゾ)	平石智徳 (〃51ギ)	土谷俊一 (〃48ギ)	(神奈川) ○金庭正樹 (〃57化)
相談役	荒井克俊 (〃51ゾ)	齊藤勝男 (〃34ゾ)	(鳥取) 山本栄一 (〃52ゾ)
遠藤信二 (〃13ヨ)	中谷悟 (〃51ゾ)	坂本幸造 (〃48食)	(岡山) 鈴木伸一 (〃50ギ)
宮原九一 (〃14ギ)	吉田正人 (〃48ゾ)	吉田正人 (〃48ゾ)	(広島) 森岡泰啓 (〃38ゾ)
代表理事	小祝良介 (〃36エ)	二瓶幹雄 (〃50食)	(島根) 中村幹雄 (〃42ゾ)
○後藤晃 (〃45ゾ)	梨本勝昭 (〃36ギ)	上戸慶一 (〃50化)	(関門) 菊池正 (〃48ギ)
学内理事	大割了 (〃37ギ)	長谷川栄治 (〃52食)	(香川) 黒川康彦 (〃18ギ)
阿部周一 (〃46ゾ)	繪面良男 (〃37セ)	上野孝雄 (〃53ギ)	(愛媛) 桑原彰三 (〃53ゾ)
原彰彦 (〃46ゾ)	宮澤晴彦 (〃53ギ)	上野久仁夫 (〃53化)	(徳島) 小黒美樹 (〃23セ)
目黒敏美 (〃47ギ)	河村章人 (〃37ゾ)	麦谷泰雄 (〃37ゾ)	(高知) 蒲原幸男 (〃49ギ)
帰山雅秀 (〃48ゾ)	古井恒弘 (〃37ゾ)	備前悟 (〃53化)	

(福岡) 石尾眞弥 (昭19セ)  
(佐賀) 花城勝也 (〃26ギ)  
(長崎) 阿部茂夫 (〃22ギ)  
(熊本) 安田広光 (〃58食)  
(大分) 武田晴美 (〃56ギ)  
(宮崎) 山崎正治 (〃24エ)  
(鹿児島) 川村軍蔵 (〃42エ)  
(沖縄) 西銘史則 (〃54修ギ)  
(北米地区連絡所・北米エルム会内)  
真板洋輔 (〃32エ)

平成22年度 本部常任幹事  
直通電話番号  
市外局番(0138)

幹事長 飯田浩二 (昭51ギ) 40-8852  
副幹事長 板橋豊 (昭50化) 40-8802

庶務部 ○荒井克俊 (昭51ゾ) 40-5535  
工藤秀明 (平3ゾ) 40-5602  
○河合俊郎 (平12生) 40-5553

会計部 中谷敏邦 (昭52ギ) 40-8821  
尾島孝男 (昭54化) 40-8800  
○今村央 (昭63ゾ) 40-5539

編集部 ○今野久仁彦 (昭49食) 40-5567  
山羽悦郎 (昭55ゾ) 65-2344  
○岸村栄毅 (昭60化) 40-5519

組織部 安井肇 (昭55ゾ) 40-5532  
大西広二 (平元ギ) 40-8845  
○丸山英男 (平元化) 40-8813

事務局 吉田秀美 42-3681

## 第90回 北水同窓会定期総会報告

### ■平成22年度 会計部予算案 (資料6)

#### 1) 平成21年度 一般会計決算報告

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金 会親潮広告料 雜収	2,452,479 9,200,000 240,000 100,000	2,300名見込み
	合計	11,992,479	
支出	親潮印刷費 通信・運搬費 総会旅費 組織強化費 備品費 消耗品費 会議費 振替手数料 事務嘱託費 傭人費 H P維持費 OA機器整備費 名簿会計へ 予備費	1,764,000 1,500,000 600,000 1,000,000 50,000 300,000 50,000 200,000 2,200,000 150,000 240,000 30,000 100,000 700,000 3,108,479	(資料7) 親潮発送費(2回分)含む 東京開催 ※  @20,000円×12回 積立 (資料8)
	合計	11,992,479	

※総会補助40万円、本部役員会補助12万円、卒業祝賀会補助10万円を含む。

### ■平成22年度 組織部予算案

(名簿会計) (資料8)

号数	発行年月日 (締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
295号	平22年8月末 (7月10日)	本誌 32頁 (内カラー6頁)	8,400	882,000	※1
296号	平23年2月末 (1月10日)	本誌 32頁 (内カラー6頁)	8,400	882,000	※1
	合計	64	16,800	1,764,000	

※1 印刷会社:有三和印刷

印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む。

#### 2) 平成22年度 OA機器整備費(積立)予算案

	項目	予算額
収入	前年度繰越金 一般会計より積立	124,063 100,000
	合計	224,063
支出	次年度繰越金	224,063
	合計	224,063

#### 3) 平成22年度 特別会計予算案

	項目	予算額
収入	前年度繰越金	21,204,910
	合計	21,204,910
支出	次年度繰越金	21,204,910
	合計	21,204,910

## 追悼寄稿

### 森岡孝朗君(昭45ゾ)の死を悼む

柳平寛幸(昭45ゾ)



昨年12月3日正午過ぎ、森岡君が療養中の岩手県盛岡市の自宅で亡くなりました。

私は札幌に住んでいますが、12月上旬のある日、同期の村井君(同じく札幌在住)から、詳細は不確かとしながら"森岡君が亡くなったとか…"という情報に接し、幾許かの時日が経過する中で、猶正確な事実が掴めず、いよいよ本当に心配になり、盛岡市にある彼の自宅に何十年振りかで電話をしてみました。

すぐに奥様(久美子様)が出られ、受話器を通じたその瞬間に"やっぱり…"という直感を禁じ得ませんでした。

気丈に経過をお話する奥様に対し、何故か私自身が正常な受け答えにならず、恥ずかしい時間を過ごしたような記憶が去りません。

奥様のお話によると、同年春に癌に侵されていることが発覚。しかし進行が速すぎ、何クルーかの抗癌剤治療を途中で諦めて、自宅療養を選択した後、一旦奇跡的な回復をしていたのに拘わらず、12月3日に帰らぬ人となってしまったそうです。

残念で残念でと繰り返す奥様の言葉が今も耳元を離れません。

森岡君は、昭和50年に盛岡市にある"盛岡白百合学園"に生物の先生として着任し、平成19年に定年を迎えたのですが、その後も教科指導、そして教務部長の職を拝命し、まさに学園を支えていたと聞いております。

彼とは、大学も高校(十勝管内大樹高校)も同窓の

仲間でありました。

先ほど"何十年振りかで…"と書きましたが、確かに昭和56年に森岡君が新婚間もない頃、当時私の職場の同僚であり、大学の同期でもある坂下君とともに仕事の都合で岩手県庁を訪ねた際に、無理と言つて泊めて頂いた記憶が鮮明に蘇ってきました。

さらに奥様のお話によりますと、幸いお子様はお二人とも元気に成長され、長男の隼祐(しゅんすけ)君は、岩手大学大学院を卒業され、現在は北日本銀行石巻支店に、又、次男の隼人(はやと)君も理学療法士として県内の老健施設で活躍されているとのことです。

家族に愛され、又学園でも、柔軟な人柄で誰からも敬愛された森岡君!

どうぞ、安らかに安らかにお眠りください。

### 松浦亮平君(昭24工)の死を悼む

安井敬一(昭24工)

昭和24年遠洋漁業科卒の松浦亮平君が平成22年1月19日逝去されました。享年80歳でした。活動的な彼で痛恨の極みです。告別式には同級生の板谷、加賀谷、菊地、高橋、と私が参列しました。

本学年は終戦の混乱期に入学し苦難な学生生活を送りました。社船実習を終え、彼は出身県の焼津水産高校に就職し遠洋漁業の教育を担当しました。

その後、北洋漁業に従事したのち大型運搬船に乗船し各地を廻り船長の任務を完遂しました。経済成長期に入り日本船員が不足し外国船員を乗船させることが出来る様になりました。

そこで彼は下船しワールドマリーン会社に転職しフィリピン船員をマンニングする様になり日本とマニラを往来し、業務に励み立派な成果を収めました。

彼の会社と私が勤務していた会社極洋と近くだったので、時々昼休みに会って色々と話した事が思い出されます。

賢明な彼は決断力に富み、人の面倒見が良くマニラにR.Mマリンサービス会社を設立し、200名近い船員を取り扱い各船舶会社に派遣し好評を得、現地で

### ■平成22年度 編集部予算案

(親潮発行) (資料7)

	項目	予算額
収入	前年度繰越金 一般会計より積立*	1,733,270 700,000
	合計	2,433,270
支出	次年度繰越金	2,433,270
	合計	2,433,270

※名簿積立金

はキャプテン松浦と皆に慕っていました。北水の同窓も大変お世話になった様です。2~3ヶ月毎に日本とマニラを往来し約30年間に亘り事業を行って来ました。

ご子息の話によると昨年3月小さな肺ガンが見つかり治療していましたが、それが頸部に転移したため急逝されたとのことです。病気について寄生虫で一度入院したこと以外聞いたことはありませんでした。

彼は文才があり10年前に「親潮」にフィリピンの様子を投稿しました。今回その後のフィリピンの様子を長文で書いた遺稿があり、一部分の掲載をお願いしています。

クラス会(寿洋)は毎年彼の帰国に合せて各地で行って来ましたが、年々加齢と共に参加者が少なくなり、平成20年10月1日函館湯の川温泉で最後の会合を行いました。この時も彼が幹事役を快く引受けってくれ、仕事の合間を見て準備をしてくれました。クラスを良くまとめ、面倒を見てくれ深謝しています。

函館に来ることは少ないので、クラス会の翌日私は彼と共に思い出深い各地を廻り、昔話に花を咲かせ名残惜しく函館を後にしました。

長い間君にいただいた友情の数々を感謝いたします。

ここに謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

### 斎藤先生(特別会員)のご逝去を悼んで

安井 肇(昭55ゾ)

本年3月29日、元北海道大学水産学部教授 水产学博士 斎藤先生(特)は心臓大動脈瘤破裂のため81

歳の生涯を終えられました。

斎先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。先生を偲び、本学部で40年間在籍された先生のご経歴とお人となりを紹介したいと存じます。

先生は、昭和4年2月10日兵庫県神戸市のお生まれで16歳で北海道大学予科に入り、昭和26年3月に北海道大学農学部水産学科を卒業なさいました。昭和26年4月大洋漁業株式会社入社後、昭和27年5月北海道大学農学部助手に任せられ、昭和28年4月同大学水産学部に配置換、昭和42年7月助教授、昭和62年4月教授に昇任され、水産増殖学科水産植物学講座を担当されて、平成4年3月31日停年により退官されました。先生は、在職期間中、海藻の発生学・細胞学、水産植物学を中心に幅広い教育と研究に日々真摯に従事され、戦後の水産学部の形成期から関わり、その充実、発展に尽力なされました。ご着任後ほどなく、昭和28年札幌の水産学科水産生物第一講座(水産植物学)の3教官(時田・正置・斎)が函館移転する際、若い先生はその実務を一手に任されていました。

ご研究は褐藻コンブ目植物の発生学的研究、細胞学的研究、紅藻ウシケノリ目植物の細胞学を中心に、幾多の種について多くの成果があります。これらご業

績は海外に広く知られるところとなっています。海藻の増殖に関して常に新たな発想を持たれ、行政や民間企業に対し誠実なご指導をなされました。

海藻調査研究に出かけられることが多く、日本の臨海研究施設は

もとより、40年間、すべて研究関係で海外100カ国は訪問されたと聞いています。何度も訪れてお気に入りは、ブラジル、カナダ、ハワイ、ヨーロッパ。練習船での研究旅行もお気に入りで、おしょろ丸、北星丸、鹿児島大や長崎大のものに年1回は乗船されていたようです。海藻は沿岸の浅いところに生育するものなので、遠洋に乗り出す大型練習船とは関係が薄いと思われますが詳しいことは最後まで教えていただけませんでした。船に運び込まれるのは大量のアルコール系固定液・固定瓶、各種アルコール系飲料。航海中、船の士官や船員の皆さんとは親しく交流なさったと聞いています。

忍路臨海実験所についても、後に臼杵水産実験所

が昭和47年3月に開所するまで、昭和28年札幌からの移転後も研究、実験、実習などによく使われ、思い出と愛着の深い施設であったようです。このように知識や経験のポケットをたくさんお持ちのため、授業の内容は海藻の生物学から始めて、食べ方、利用法、臨海研究所の様子、海外の事情、成功・失敗・冒険談になっていき、学生にはたいへん人気があったようです。

学科や講座の壁を越えて困っている学生がいると悩みを聞いて元気づけ、快活に笑い、ともに飲んでともに栄えようと言わっていました。しかし、もう一つの面はかなり物静かで、礼儀正しく、美術や哲学の真髓にふれるようなことを思索していました。小磯良平、山内繁雄、遠藤吉三郎、西村真琴、中谷宇吉郎という諸先生の逸話、考え方をよく知っておられ、屡々、夏の季節などに教室や臼杵実験所の部屋で「誰ももう知らへんことやけど、ちょっと知っておくといい。」と言われ、静かに話し始められました。頭の回転がとても速く体力もある先生ですが、内面は傷つきやすく深い無常観を持っておられるようでした。

去年、平成21年8月忍路丸100周年記念行事があつたとき、斎先生は、ふらりと水産学部に来られ、平松かおりさん(平8ゾ)と私の案内で、図書室や産学交流プラザでの記念展示を懐かしそうにご覧になり、おしょろ丸二世、三世、四世での思い出を静かに語られていました。その後、3人で私の研究室に移動して、忍路丸の命名者である遠藤吉三郎先生のこと、海藻研究の思い出、海藻調査旅行のことなど冗談や謙遜を交えた楽しい話を快活になされていました。2時間以上居られた後、部屋を去られるときに、私は変なこと言ってしまいました。「遠藤先生は早く亡くなられたので残念ですが、斎先生は長生きでこうして若い人達

に北大の精神や水産学の元気を遠藤先生みたいに伝えてますね。長生きした遠藤先生みたいでええですね。」と。先生の目が笑っていて、手でいやいやという風にして、「じゃあね。またね。」と帰って行かれました。淡いセピア色を含んだ日の光に包まれた函館の夏が過ぎゆく午後のひとときでした。

斎先生の急なご逝去は先生を知る多くのご友人、ご指導を受けた学友にとって誠に残念でなりません。面影を偲び、謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。

### 鈴木恒由先生(昭20ギ)の急逝を悼む

飯田浩二(昭51ギ)



平成22年7月26日、元北大水産学部教授の鈴木恒由先生が亡くなられたと、ご家族からご連絡がありました。享年86歳でした。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

鈴木恒由先生は大正13年7月13日、愛知

県宝飯郡でお生まれになりました。昭和20年9月に函館水産専門学校を卒業後、練習船おしょろ丸の航海士として勤務され、昭和28年に北海道大学水産学部遠洋漁業科航海計器学教室に配置換となり、以来昭和63年3月に同漁業測器学講座教授を定年退職するまで、通算41年もの永きに亘り、教育と研究にご尽力されました。特設専攻科学生やラグビー部顧問としての信望も厚く、「恒さん」の愛称で親しまっていました。イカの生態の研究を続けられ、ハワイ大学とのトビイカ共同調査や函館においてイカ研究者を集めた国際フォーラムを開催しました。退官後は、株式会社函館製網船具の技術顧問に就任され、生きたイカの輸送水槽を開発するなど活躍され、91年には「函館のイカはなぜ旨いか」を出版されました。

ここに、謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

「写真は、西川正一(昭56ギ)氏により撮影されたものを使用させて頂きました。編集部」

地域の活性化のために全身全霊の情熱で取り組みます。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役 中山 一郎

本社 040-0075 函館市万代町20番10号  
PHONE (0138) 40-6275 · FAX 40-3939

釧路営業所 084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3  
PHONE (0154) 52-4101 · FAX 52-4103  
<http://hakonaka.jp>

## 寄稿

# “この魅力ある国ヒリピン”その後

松浦 亮平（昭24工）

前回主題により当時のヒリピンマニラを紹介し親潮に投稿してから10年が経過しました。一昔の譬え通りここマニラ市内は一変、20年前に300キロも離れた北の観光地バギオ付近で発生した大地震で、マニラの古いビルは壁にひびが入り、使用禁止になってから放置されたまま、建て替えは費用が嵩むせいか手付かずのままだったが、最近になって漸く近代的な高層ビルに建て替え工事が始まった。街路の並木も整備され街灯が真新しく設置された。現大統領マカバガル（おじいさんも大統領経験者の名門出身）就任よりクリーンマニラのキャンペーンで朝からごみ集めの清掃車が街中を走り回り、街道には黄色のシャツを着た専属清掃員が配置されるまでになった。ずっと前に日本のTVでも紹介された、国道と国鉄に挟まれた空間を利用して住み着いたスコーター（不法占拠者）のオンボロ家屋の集落、線路屋根に放り上げ運ばせると言った悪知恵ありの集団部落、不法とは言え30年以上も住み着いたこの部落、前任大統領のマルコス、アキノ、ラモスと続いた政権下で手をつけなかった難題を、一気に湾岸の埋立地に強制移住させて街のイメージを一変させた。前には全く道路から見えなかった鉄道と停車駅が新たに建設された様に真新しく映る。又街路には新しく植樹された並木が美しく、うっかりすると走り慣れたこの道で現在位置を見失いそうな錯覚を起こす。この彼女の手腕はこの他3年前に軍隊の待遇不満と、若手将校によるクーデター紛いの騒ぎ、2日デパートの屋上立てこもり事件も「現物支給の妥協」とか言って首謀者の処罰はしなかった事件、この他当選した年の選挙で旦那の賄賂事件ありとかで盛んに新聞紙に書き立てられ、一部閥僚辞任などありで一時は辞任かと噂された。加えて昨年2月には前アキノ大統領も交えての対陣要求デモストレーションも効果なしに終わった、とはさすが頭のきれる可愛いおばちゃん、軍の上層部をがっちり掴んでのテクニックには長けていると専らの噂、それが彼女の実力かも次回大統領選に意欲ありとか。

こんな社会情勢の続いた10年間にヒリピンには日本からの毎年100億円なる莫大な支援でインフラ整備



が急速に進み、お決まりの夕立に街中各所の洪水騒ぎでの交通渋滞が少なくなり、日本から贈られたゴミ収集車の活躍で路地裏まで清潔になったし、お決まりの停電も忘れたようになくなつたため、必需品だった事務所向きポータブル発電機も消えていった。市内の外れにあったゴルフ場が広大なニュータウンに生まれ変わり、高層マンションも出来るし、市内のインターナショナルスクール、有名私学校、日本人学校も移動、びっくりする程の大ショッピングセンターが現れ近代的な様相に変つたが、何しろ敷地面積は大きいので未だごく一部しか利用されていない。ファーストフード店コーヒーショップも出来ているがお客様はすぐない。

将来どの程度利用され発展するか疑問視される。上記の環境整備と共に時代の変移は先ず食生活。この国のサラリーマン、出稼ぎ者の収入がこの10年で倍増し、結構値段の高い外国資本のファーストフード店マクロナルド、ジョルビー、ケンタッキー等が街の要所を占拠、多くの若者の利用で繁盛この国の食文化を変えつつある。10年前までは日曜祭日には家族連れで盛況だった大衆食堂、大皿にテコ盛りご飯を囲んでの一家団欒の食事光景、店頭に並べられた新鮮な魚を選んで丸焼きの注文を出来る店も見られなくなつたのは寂しい。こんな街中の風景にも昔並みに路地裏通りに見られるトロトロと呼ばれる個人食堂、ウイークデイにはビジネス街の裏通りに現れるこの種の移動食堂車、何れも格段に安い値段のローカル食が、職人サラリーマンに昼食を提供し結構な繁盛ぶりをみせている。これに加えてここ2～3年で増えたの

が、空きオフィススペース利用の日本のセブンイレブン、ファミリーマート他にミニストアが安上がりの軽食を売っている等多様になった。

### マニラの勤めと高人気の船員さん

ここマニラのオフィスでは銀行、一般の会社は殆ど女性社員で占められているとは、男性諸君は何処に就職しているのかと不思議に思う。考えれば自國産業の無い国、男性社員を必要とする生産工場は最近外資導入で多少増えたが、以前は少なく理工学、医学と法科の大学出身者は就職口を求めて渡米、残ったエリートはライセンス取得し縁故の助けで病院、弁護士、会計事務所、パイロット等に選ばれる若者以外は高校、カレジ卒業（日本では高卒）のみでは。通常では入社試験等余程のチャンスに恵まれない限り中々オフィスへの就職は不可能、せいぜい車の免許取得してトラック、バス、ジープニー、タクシー、これに次いでオートバイ免許でトライスクル運転手か、自作農他で漸く生活が出来る程度の職業、外には建設作業員があるが一定期間の臨時雇用が多い。

そんな貧しい働く環境の中、此処に最も恵まれた船員社会が実現。30年位前から各国が目をつけた便宜籍船（後述）にヒリピン船員の組み合わせ、丁度日本では高度成長期に入り電化製品の需要と、自家用車の普及等で陸上産業が人材を要求、給与水準も上昇した時代に海洋法規制で遠洋漁船船員も減少に加えて、労働組合の給与水準の上昇より、オーナーは便宜籍船なる仕組みにより登録税金の安い国パナマ、バミューダ、バヌアツ、シンガポールなど等の国籍に変更し、給料の安い韓国、ヒリピン船員に乗せえる風潮に代わってから30年、今度は韓国も高度成長が続き、船員の減少から10年、一部にインドネシア、ベトナム、中国の船員乗船も在ると聞くが、何と言つても英語の通ずるヒリピン船員は強み。現今はヒリピン船員の時代に代わりその数なんと5～6万人と全盛期になった。当時から給与はITF（国際運輸労連）の高級サラリーが適用され陸上サラリーマンの5倍以上の収入に。加えて船員の供給ソースがヒリピンに集中し

将来にかけて安定したCrew確保にと、日本の大手船会社が全てマニラに船員教習所を開設乗船指導中。日本郵船では08年に自前の海洋大学を設立し、教育と本格的な指導育成、この国の商船学校より推薦の人材を採用再教育し乗船させる計画と力の入れよう。この他には25年前に時のマルコス大統領の妻イメルダの里レイテ島に、ヒリピン船員の技術向上のため日本の運輸省が設立。教員までもJIKAから派遣した教育機関があるが、マニラからFLTで1時間も掛かる距離では教育費は国家負担となっているも、生活費の問題ありで利用者は限られている。

元来ヒリピンは日本と同じく海洋国。人、荷物運送も船の利用が多く、昔から内航船員の多い国。外航船は砂糖、材木、ココナッツ、コーヒーと日本、USと就航していたが、近来この輸出は殆どなくなり、専ら島巡りの内航貨物船、一部に昔からのオーナーの大型外航船に勤務しているがその数は僅か、大半は給与の高い外国オーナーの便宜船に乗船勤務している。

上記便宜船の運航が始まり韓国船員からヒリピン船員時代に変った30年前より給与の高い外航船への希望は、通常では職場確保の難しいこの国の男性には憧れの職場。兎に角学校への就学をと親戚兄弟総員で無理算段の学費工面の4年間、卒業すれば何とかなるを当てにした数何と毎年2000人もいる。しかしこの連中も学校は出たけれど乗船就職は容易ではなく、この内半分はコネがなく船員になれない者が70%以上、但し優秀な成績で卒業し大手会社に入社、見習い養成組の玉の輿も5%位ある。

松浦亮平氏は本年1月19日に亡くなられました。亡くなられる約2ヶ月前に、同期の安井敬一氏に親潮への投稿原稿を託されました。本文は、14,000字に及ぶもので、親潮の規定により全てを掲載することができません。安井氏のご判断によりその一部を、本誌に掲載させていただきます。尚、投稿者の表現を最大限に尊重しましたが、どうしても意味が取れない部分を編集部の責任で一部修正させていただきました。個人のご冥福をお祈り申し上げます。

**北水同窓会 東京支部総会の報告**

浜谷一郎（昭51化）

去る、平成22年1月25日（月）北水同窓会 東京支部の総会＆懇親会が銀座ライオン（6F）クラシックホールにて開催されました。会は鈴木支部長の挨拶に続き神山茂郎大先輩（昭19セ）のいつもながらの元気な祝杯の発声で始まり大盛況のうちに無事終了しました。

当日は若手、中堅、重鎮、また女性も年々参加が増え、あわせて120名とバランスの良い、賑やかな会となりました。

途中趣味の「詩吟」の披露や、遠くは秋田より駆けつけた「海の森づくり推進協会」代表の松田恵明（昭41ゾ）による活動報告もあり、時が過ぎるのを忘れる一時でした。

今年も「日本水産様」「マルハニチロ水産様」「極洋様」「東洋水産様」「大塚製薬様」「ヤマサ醤油様」からの商品提供のご厚志により全員にお土産が渡され、いっそう満足していただけたようです。

会員各社様ありがとうございました。

又、本総会終了後の幹事会で次年度の日程は、本部より北水同窓会定期総会を東京開催の要請を受け、5月に合同で実施となりました事をこの紙面を借りて報告させていただきます。

**平成21年度北水同窓会小樽支部総会**

幹事長 平山 聰（昭54ギ）

2月19日、北水同窓会小樽支部総会が、市内「潮亭」で開催されました。

今年は、昨年より少ない17名が参加し、活動報告、会計報告、次年度役員選出など、一連の議事を終了し、懇親会へと移りました。初参加のメンバーもあって、近況報告など和氣あいあいのうちにあつという間に時間が過ぎ、来年度の再会を約して解散しました。来年度も、是非多くの皆様に参加していただきたいと思います。

前列右より 高山裕斌（昭36ゾ） 勝木 茂（昭31ギ）  
東 廣（昭29ギ） 小田一夫（昭45ギ）  
藤田政晴（昭31ゾ）

中列右より 平山 聰（昭54ギ） 堀井亜希（平9食）  
川島孝省（昭38セ） 櫻庭啓恭（昭46ギ）  
五十嵐映児（昭48化） 山本貞夫（昭46化）

後列右より 三宅教平（平16生） 梅崎真大（平10ギ）  
藤本崇人（平19生） 大野 肇（昭55ギ）  
高嶋一成（昭63ゾ）

**湯けむり32卒同期会**

杉田哲夫（昭32エ）

卒後53年、後期高齢者以上の20名が薰風満喫の箱根湯本水明館に5月16日全国から集まつた。

87名が巣立つて激動の昭和と平成を生き抜いたが、25名の物故者、連絡のつかない者9名、病気療養中の者、伴侶をケアする者、現役の猛者などが残念ながら欠席であった。

卒業以来の奇跡の邂逅もあって宴席はいやが上にも盛り上がった、亡くなった友らへの冥福を祈つて黙祷。札幌から参じた今井君の絶妙で洒脱な開会の辞で53年の年月をタイムスリップする。然しながら各自の紹介では健康に関するもの、病にいかに戦ったか等の話題が中心で加齢による現実と価値観の推移を思わざるを得ない。

二日目はバスで新緑の深山箱根の名所旧跡を訪ねた。既に山は息を呑む緑のまつりの中にあって「やまふじ」の薄紫が時折見せる靈峰富士の白に溶け込み、詩歌を越えた美しさを堪能した。

中伊豆から二日目の湯宿熱海のニューアカオ館に至る山道から相模湾が望める。海は西からの陽を柔らかに受け小さな波が陽をもてあそぶのか、陽が波をもてあそぶのか、the time goes by 75歳超の吾々の至福のひと時ではあった。

熱海の夜は穏やかであった、山海の珍味に、美酒に酔うて語り合い、過ごせし半世紀の皆さん思いを共有し合って逍遙歌、都ぞ弥生を高歌放吟、歌声は

相模の海に飘々として流れていった。

3日目の朝、早晩、真っ赤な旭日は熱海の海に静々と昇る、一条の赤い線を水面に引く、白い漁船が赤い線を裂いて白い航跡を残し島へ向かう。

露天風呂からの絶景だ。3日間の晴天がもたらした幸運であった。

三々五々別れを惜しんだ、別れの合言葉は次回の関西での同期会で「黙祷されないぞ」であった。誰言う事もなく2年後の55周年会は関西で、となった。

半世紀、昭和と平成を栄光と前進の生き様で水産、海運をメインに各界で活躍した同期の皆さんのが今後の平安を祈りつつ、更に幹事の皆さんこの卓越した企画立案に感謝し会の総括と致します。

出席者、前列右からエ稻沼、セ進藤、エ杉田、セ吉村、ゾ今井、ゾ薮口。中列左からセ牧野、セ安藤、セ山口、セ小泉、ゾ石田、ゾ寺尾、ゾ倉本、セ伊藤。後列右からセ増田、セ川村、エ上島、エ水野、エ池田、エ三幣、以上20名



いま豊かな食生活。  
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

# 中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長 石川栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号

鮮魚部 TEL 017(738)1281

冷凍部 TEL 017(738)8221

塩干部 TEL 017(738)5511

加工部 TEL 017(738)6581

企画部 TEL 017(738)1281

管理部 TEL 017(738)1181

ホームページ <http://www.aochuu.co.jp>

## □学位取得者

### 【平成21年9月】

Ana Luisa Valente Fernandes Rosa	"Study on influence of environment on recruitment of the Japanese common squid, Todarodes pacificus, and walleye pollock, Theragra chalcogramma"
山内繁樹	"水産基盤整備事業における人工魚礁の機能に関する研究 -魚礁技術の展開と展望-
上野裕介	魚食性鳥類の繁殖コロニーの消失が陸上植生に及ぼす影響: アオサギコロニーにおける林床植生の時空間変化
山口宏史	"Development of stock management evaluation procedure incorporating uncertainty from sampling error"
崔成剤	海産紅藻スサビノリ(紅色植物門、ウシケノリ目)のオルガネラゲノムの遺伝に関する分子生物学的研究
福若雅章	Ocean Life History of Japanese Chum Salmon <i>Oncorhynchus keta</i>

### 【平成22年3月】

岡本俊	大気変動に対する黒潮統流域における春季ブルームの応答
越智大介	"Regulation of foraging and food provisioning behavior of parents and physiological responses of chicks to intermittent feeding in Streaked Shearwater"
加賀達也	Phylogenetic Systematics of the Family Sillaginidae (Actinopterygii: order Perciformes)
風間健太郎	ウミネコの集団性に関する研究: 攻撃性の個体変異と集団における機能
金誠勇	Phylogenetic Systematics of the Family Pentacerotidae (Actinopterygii: order Perciformes)
徐賢珠	Long-term fluctuations in growth, survival, and population dynamics of chum salmon, <i>Oncorhynchus keta</i> , in the North Pacific linking to climate changes
田口美緒子	Global genetic population structure and phylogeography of harbour porpoise ( <i>Phocoena phocoena</i> ) inferred from mitochondrial DNA variation
但馬英知	水産・海洋の視軸からみた北海道における漁業集落の史的形成構造の解明と沿岸地域振興策への適用
佐々木義隆	ヤマトシジミの人工種苗生産に関する研究
丹羽健太郎	"クロアワビ <i>Haliotis discus discus</i> における消化酵素の特性と微生物の初期餌料効果に関する研究"
小川展弘	キンギョ <i>Carassius auratus</i> 再生鱗の初期石灰化機構に関する研究
横山純	水産物の流通拠点である漁港における衛生管理に関する研究
石井馨	水産公共施策策定・評価手法と当該手法による水産地域の分析に関する研究
李琳	Studies on formation of the cell polarity in monospores of the red alga <i>Porphyra yezoensis</i>
劉正南	Population genetic structure and phylogeography of masu salmon ( <i>Oncorhynchus masou</i> ) in the Far East inferred from mitochondrial and microsatellite DNA analyses
田元勇	スルメイカ肝臓に含まれるプロテアーゼ群の酵素化学的性質と魚肉消化ペプチドの生産に関する研究
熊谷祐也	水産軟体動物β-1,3-グルカナーゼの酵素特性と一次構造に関する研究
A.K.M Azad Shah	Mechanisms involved in the formation of characteristic taste and flavor during the production of dried herring fillet
安部智貴	魚類の生体外卵生産に関する研究

## □平成21年度 卒業・修了者の就職先一覧

### 学部

株式会社ニッセイコム/山崎製パン株式会社/株式会社NTTデータ関西/株式会社はま寿司/愛知県経済農業協同組合連合会 雪印乳業株式会社/ぎょれん/中央出版株式会社/帯広信用金庫/北海道ぎょれん/株式会社ジーピース/ベル食品株式会社 株式会社モンテローザ/福岡県庁/NTTコミュニケーションズ株式会社/北海信用金庫/株式会社フードサービスネットワーク 株式会社シジシージャパン/イシオ食品(株)/函館どつく株式会社/日立アドバンスシステムズ株式会社/株式会社横河ブリッジホールディングス
--

富士通エフ・アイ・ピー株式会社/フェローアカデミー/住友生命保険相互会社/札幌市役所/北海道警察/伊藤ハムデイリー株式会社  
明治乳業株式会社/北海道労働金庫/富士通エフ・アイ・ピー株式会社/アステラス製薬株式会社/サイクルハウスクランカー  
エーザイ株式会社/生活協同組合コーブさっぽろ/明治乳業株式会社/愛知県警察/鈴与商事株式会社/株式会社ロイズコンフェクト  
沼田市役所/新函館農業協同組合/財團法人食品分析センター/旭化成アミダス/東洋水産株式会社/株式会社ナシオ  
日本トラスティ情報システム(株)/札幌市役所/六花亭製菓株式会社/和光純薬工業株式会社/株式会社セイコーマート/株式会社LNGジャパン  
名古屋市役所/株百五銀行/株式会社アルバス/日本食品分析センター/株式会社日本アクセス

### 修士

川崎汽船株式会社/静岡県庁/北海道CSK/深谷市役所/常呂漁業協同組合/全国酪農業協同組合連合会/函館市役所  
エスピー食品株式会社/新潟県庁/財團法人日本食品分析センター/ネスレ日本/株式会社ニトリ/株式会社川本製作所  
トヨタ自動車北海道株式会社/株式会社がまかつ/北海道信用漁業協同組合連合会/独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構  
中島水産株式会社/教員(学校名不明)/株コマツユーティリティ/株式会社池田模範堂/株式会社データベース/株式会社セイコーマート  
株式会社キュー・アンド・シー/水産庁/農中情報システム株式会社/株式会社シジシージャパン/富士通株式会社/株式会社ビー・スタイル  
青森県営浅虫水族館/日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社/富山県庁/川商フーズ株式会社/東洋埠頭株式会社/江別製粉株式会社  
東洋水産株式会社/株式会社新葉開発研究所/科研製薬株式会社/東レ株式会社/新日本新葉株/日清丸紅飼料株式会社  
株式会社マルハニチロ食品/オーディンフーズ/京都平安高校/財團法人 化学物質評価研究機構/株式会社医療システム研究所  
東籠興業株式会社/日本たばこ産業株式会社/協同飼料株式会社/カルビー株式会社/キリンビール株式会社/東洋製罐株式会社  
長野県水産試験場/株式会社理研ビタミン/よつ葉乳業株式会社/株式会社ニチレイロジグループ/キリン協和フーズ株式会社  
株式会社ニチレイロジグループ本社/独立行政法人理化学研究所神戸研究所/財團法人日本食品分析センター/雪印乳業株式会社  
ヤマサ醤油株式会社/プリマハム株式会社/株式会社エコニクス/アークレイ株式会社/技研正規株式会社/東海漬物株式会社  
大塚製薬株式会社/サンマルコ食品株式会社/東洋冷蔵株式会社/雪印乳業株式会社/財團法人 食品環境検査協会/函館市役所  
カゴメ株式会社/岩谷産業株式会社/函館タナベ食品株式会社/厚生労働省東京検疫所/株式会社 フジキン/株式会社ワールドインテック  
三井製糖株式会社

### 博士

北海道総合研究機構さけます内水面水産試験場道東支部/北海道大学短期支援員/独立行政法人水産総合研究センター 遠洋水産研究所  
森高等学校/水産総合研究センター 遠洋水産研究所/北海道中央水産試験場/独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所  
独立行政法人物質・材料研究機構/韓国水産試験所/独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所/水産庁漁港漁場整備部  
北海道開発局函館開発建設部函館港湾事務所/大連工業大学

## □有朋自遠方來不亦樂乎 平成22年2月～平成22年7月に研究室を訪問された方々(敬称略)

海洋生物資源科学専攻浮遊生物学領域	育種生物(旧植物) 鵜山 貴司 (H19海)3/20-22 三島かおり (H20海)4/10 小俣 紋 (H20海)3/10-17	資源利用学(旧食品化学第1) 椎名 徹 (H19資)2/5 菅原 玲 (S63食)2/19 安藤 淳 (H5食)4/30
水圈生態系保全学	笠川 英里 (H20生)3/26 沼田 啓貴 (H21生)7/17 下田 健吾 (H20生)6/ 小川 展弘 (H16生)7/9 三宅 真人 (H16生)7/9 大澤 弘和 (H22増生)5/3 深澤 大 (H22増生)7/22	生産環境保全修復学(旧化学工学) 水野 克彦 (H元化)3/22 島村輝太郎 (H12資)7/15
海洋分子生物学、海洋応用生命科学 (旧水産高分子化学)	河村 博 (S48ゾ)7/5-7 堤 輔 (H15資)7/23	北水同窓会本部 水谷 隆彦 (S42セ)7/6 浅野 一彦 (S45ギ)7/15 堤 輔 (H15資)7/23
資源生物学分野 資源解析学領域 (旧資源生物学講座 松石研究室)	平野 広 (S48ギ)7/5	
海洋生物資源科学部門衛星	近藤 直樹 (H19海)3/26 高尾信太郎 (H20海)6/25 長谷部 茜 (H20海)3/	

## 会員死亡通知

吉岡 一雄 (昭15ギ)	平成22年 7月 4日	ご家族様より
河村 清七 (昭17セ)	平成20年 3月13日	ご家族様より
小松 豊彦 (昭19ギ)	平成22年 4月18日	ご家族様より
土屋 光三 (昭19ギ)	平成22年 3月31日	ご家族様より
鈴木 恒由 (昭20ギ)	平成22年 7月26日	ご家族様より
斎藤 俊三 (昭20セ)	不 明	
及川 文弥 (昭20ゾ)	平成22年 2月16日	ご家族様より
西田 八郎 (昭22ギ)	不 明	
白木 弘蔵 (昭23ギ)	平成22年 3月 3日	ご家族様より
大久保正一 (昭23ゾ)	平成20年 5月	ご家族様より
宮崎 一郎 (昭24セ)	平成22年 7月 2日	羽田野六男 (昭31セ) 様より
三上 正一 (昭24ゾ)	平成19年 6月20日	川村一廣 (昭33ゾ) 様より
佐々木幸夫 (昭25セ)	平成14年	ご家族様より
南雲 輝男 (昭26セ)	平成22年 3月21日	宮澤 宏 (昭26教セ) 様より
鈴木 悅司 (昭28ギ)	平成22年 3月23日	ご家族様より
工藤 駿一 (昭28セ)	平成22年 6月25日	伊藤茂弥 (昭28セ) 様より
中村 和夫 (昭31ギ)	平成22年 5月17日	谷口滋穂 (昭35エ) 様より
藤森 達夫 (昭32エ)	平成22年 2月19日	三弊英男 (昭32エ) 様より
鈴木潤一郎 (昭35セ)	平成22年 2月 4日	ご家族様より
橋口 岑司 (昭38ギ)	平成21年10月 9日	ご家族様より
佐藤 辰夫 (昭38ゾ)	平成20年 9月	ご家族様より
吉川 正彦 (昭39セ)	平成22年 6月15日	函館支部様より
森岡 孝朗 (昭45ゾ)	平成21年12月 3日	ご家族様より
松浦 亮平 (昭24エ)	平成22年 1月19日	
斎 熙 (特別会員)	平成22年 3月29日	安井肇 (昭55ゾ) より

## 親潮投稿規定

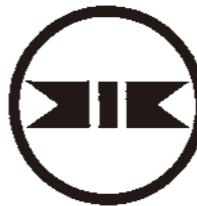
【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛のに封書で郵送するか、同窓会メール宛に送付することとする。

### 【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール(hokusui@hotweb.or.jp)のみ受け付ける。写真は入れられない。

食文化の急速な国際化に伴い水産総合商社を目指す道水



株式会社 道水

代表取締役会長 高野洋藏

(昭和24年製造科卒業)

代表取締役社長 高野元宏

水産物卸売及び加工販売、水産物輸出入、冷凍冷蔵倉庫、不動産賃貸業  
本社 函館市豊川町27番5号 TEL(代)0138-22-7136 FAX 0138-22-3777  
事業所 はこだて工場(北斗市)  
東京・札幌・能登・韓国釜山

## (有)山本食品研究所

山本巖 (20セ)

山本津彦

〒914-0812 福井県敦賀市昭和町2丁目2316番地

TEL (0770) 23-0297(代)

FAX (0770) 24-2882

E-mail y-f-labo@angel.ocn.ne.jp

K 海洋土木株式会社

本社 東京都中央区銀座3-8-13

TEL : 03-3561-3051 http://www.kaiyodoboku.com



FP魚礁に集まるメバル類

オクトムに入礁するミズダコ



専務取締役 石井直志 (49ゾ)  
取締役相談役 真田篤弘 (48化)  
青森営業所長 青山禎夫 (39ゾ)  
技術部課長 日和久典 (平6ギ)

取締役相談役 鈎木和三 (38ゾ)  
取締役相談役 川眞田憲治 (48修増)  
札幌支店部長 村井和明 (59ゾ)



## 学部長(研究院長)ならびに 名誉会長就任にあたり

北水同窓会名誉会長  
嵯峨 直恵 (特別会員)

この度、原前学部長(研究院長)の任期満了を受け、本年4月1日より学部長(研究院長)に就任いたしました。さらに、5月29日に青森で開催された第90回定期総会において、北水同窓会名誉会長に推挙されました。

水産学部の歴史は、札幌農学校に始まり、幾多の変遷を経てきました。北海道大学12学部のうち、唯一札幌以外の都市、すなわち函館へ昭和10年にキャンパスを構えました。平成12年(2000)に教員の所属が大学院に移ったことから水産科学系では唯一の研究主導型の大学院大学となりました。また、平成16年(2004)の国立大学法人化後では、北海道大学の学部を持つ部局の中で先陣を切って学院・研究院構想を平成17年(2005)4月から実現し、現在の大学院水産科学研究院(研究組織)、大学院水産科学院(大学院教育組織)および水産学部(学部教育組織)として教育研究体制を整備・充実するに至りました。さらに平成18年(2006)4月からは水産学部を改組し、新たな4学科に移行しております。このように、国際化の進む中、時代が求める教育・研究ニーズに対応できるように水産学科、水産学部、水産科学研究科、水産科学研究院と学科の改組、大学院の改革を積極的に推進してまいりました。このように百余年に亘る輝かしい歴史を刻む水産学部の伝統に基づき、かつ新しい風を取り入れながら、私は、この学部の新たな百年の発展に向けた教育・研究基盤の整備と体制の構築に邁進する所存であります。

水産学部では、これまでに21世紀COEプログラム、都市エリア産学官連携事業等いくつかの大型プロジェクトに参画し、多くの成果をあげてまいりました。現在、知的クラスター創成事業／地域イノベーションクラスター事業や地域再生人材創出拠点形成事業にも参画しております。現在、函館圏では水産科学研究院を中心とする産学官による産業界の活性化の試みが進行中です。特に函館市は、地域再生計画の「函館国際水産・海洋都市構想の推進—水産・海洋に関する学術・研究拠点都市の形成—」をかか

げ全国的に注目されている学術・研究拠点都市です。この学術・研究の集積によって、大学が地域社会と融合して優れた知的教育環境を作り上げていくことは、市民社会と大学及び産学官の連携による関連産業の結集を誘発し、さらには、新しい産業創出へつながることが期待され、その社会的な意義・波及効果は計り知れないものがあります。一方、教育面では世界11カ国21大学2研究機関と部局間交流協定を結び、毎年、多くの留学生を受け入れとともに、海外にも学生を留学させてきております。このように水産学部では、国際貢献そして地域の活性化に積極的に取り組んできていますが、これからも一層教育研究に力を注ぎ、高度化・先端化した科学技術を修得して国際的に貢献できる人材を養成することで社会的、学術的責任を果たしてゆく所存です。

ところで、日本学術会議は、これから30年の日本の進むべき方向は「地球の持続可能性を、全ての科学・技術の価値観に組み入れること」であると結論付けました。このような状況下で、私達は、未来の社会に対して責任ある「水産科学」を作り上げることが求められております。すなわち、「水産科学」が「食料生産を支える学問」として重要なことは明白ですが、これに加えて「地球の持続可能性に貢献する」という文脈が、21世紀の「水産科学」には必要になります。新しい「水産科学」は、まさにこの視点を持っているかどうかが問われることになるでしょう。この視点を取り入れた新しい水産科学を、私達は「持続可能性水産科学」と命名します。「持続可能性水産科学の構築を果たす」という大きな志のもと一歩一歩着実に前進してまいります。この志を果たすために、同窓会各位には今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

末筆となりましたが、北水同窓会の益々のご発展を祈念し、水産学部長(研究院長)並びに北水同窓会名誉会長就任の挨拶とさせていただきます。